

## 20 価肺炎球菌ワクチン プレベナー20 接種開始のお知らせ

小児や高齢者、心臓や肺をはじめとする基礎疾患をお持ちの患者様向けのワクチンである肺炎球菌ワクチンですが、このたび 20 価肺炎球菌結合型ワクチンであるプレベナー20 が日本でも発売開始となりました。これまで使用されていた 13 価ワクチン（プレベナー13）は販売中止となるので、13 価ワクチンから 20 価ワクチンに切り替わることになります。

プレベナー20 は 10 月からは小児の定期接種に使用可能となっており、新たに定期接種を開始するお子様は 15 価ワクチン（バクニュバンス）とプレベナー20 のどちらの製剤も使用することが可能です。

日本では 2014 年に成人向けの 23 価肺炎球菌多糖体ワクチンであるニューモバックスの定期接種が始まり、毎年 65 歳から 100 歳まで 5 歳ごと（70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳）に定期接種が行われてきました。つまり、1948 年以前にお生まれの方は 2 回定期接種の機会があったことになります。2024 年からは年齢での対象者は 65 歳に限定され、加えて 60～64 歳の重度の心臓・肺・腎疾患、HIV の方も対象の定期接種となり、対象者は公費により少ない自己負担で接種を受けることができます。また、病気や怪我で脾臓を摘出した方と、寒冷凝集素症や発作性夜間ヘモグロビン尿症でスチムリマブやペグセタコプランを投与している方は、保険適応での接種が可能です。

元々小児向けに開発された肺炎球菌結合型ワクチン（13 価・15 価ワクチン）は、免疫原性がニューモバックスと同等～より優れていると考えられており、肺炎球菌感染症のリスクが高い基礎疾患（糖尿病、慢性肺疾患、アルコール依存症、慢性心疾患、慢性肝疾患、透析、HIV、自己免疫性疾患、抗癌剤・ステロイド・免疫抑制剤・生物学的製剤使用者、脾臓がない方、造血幹細胞移植後など）を持つ方は、13 価・15 価ワクチンとニューモバックスの両方を接種することが推奨されます。米国では 2019 年時点で 65 歳以上の 32%が両方のワクチンを接種していると報告されています。

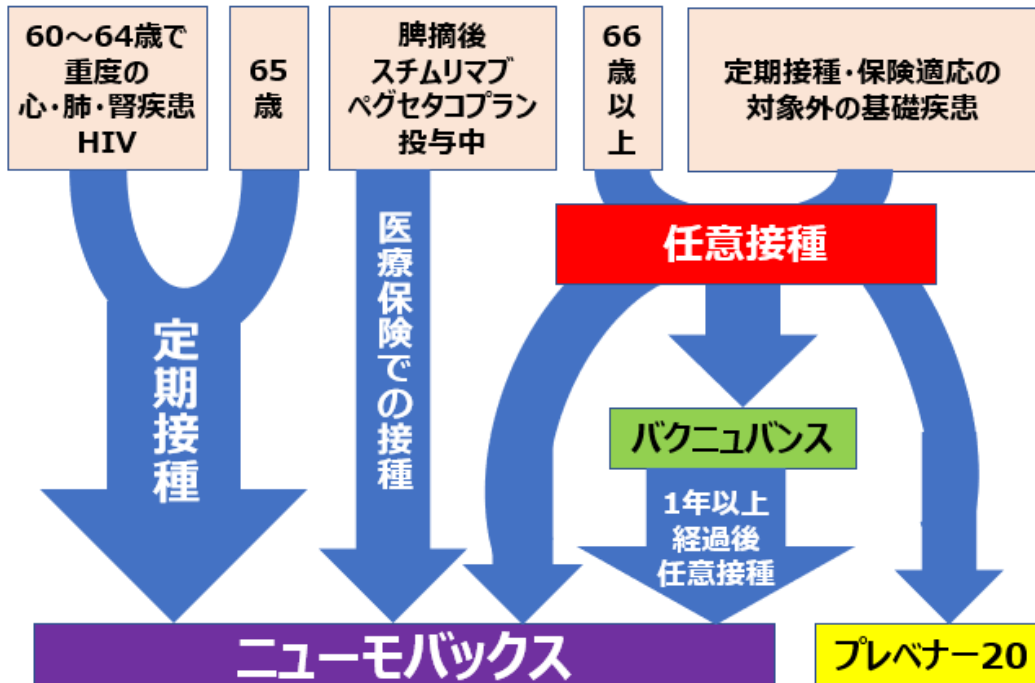
しかし、日本では 13 価・15 価ワクチンは成人に対しては国や自治体からの接種費用の補助はないため、接種を受ける方はごく少数に留まっている状況です。

今回発売開始となったプレベナー20 は、13 価・15 価ワクチンと同じ結合型タイプのワクチンで、13 価ワクチンに 7 種類の血清型を追加した製剤です。プレベナー20 は 13 価ワクチンと比較して同等の安全性を持ち、13 価ワクチンと共通する 13 の血清型に対してはほぼ同等の免疫反応を誘発し、新たに追加された 7 つの血清型に対しては 13 価ワクチンよりも大幅に高い免疫反応を生じたと報告されています。

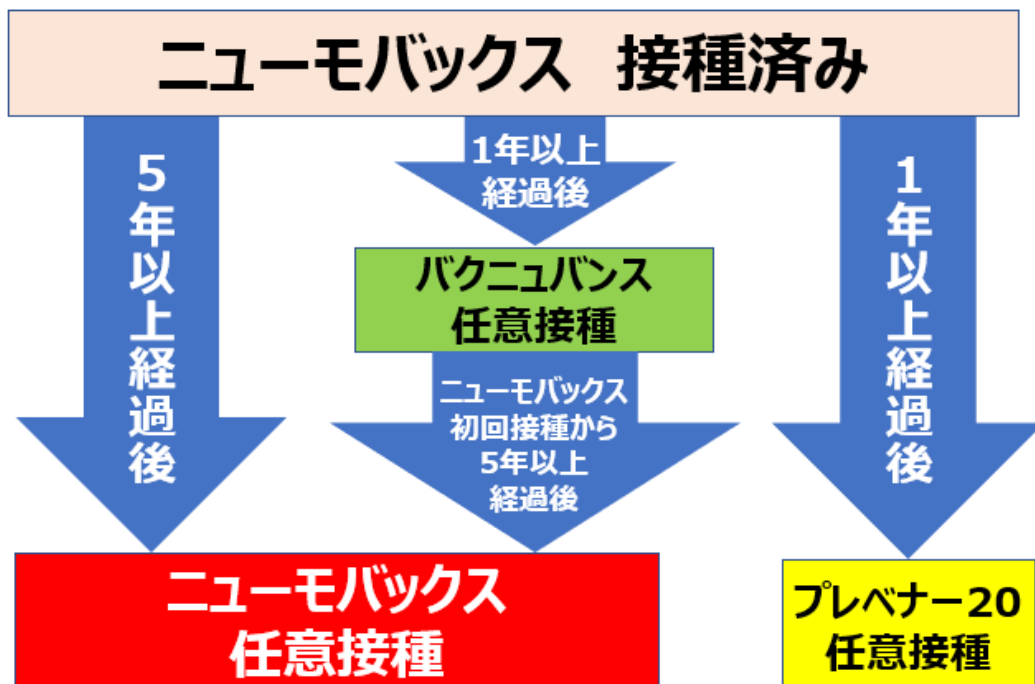
Vaccine. 2024 Feb 15;42(5):1071-1077. PMID: 38267330

# どの肺炎球菌ワクチンを打つと良いの？

## 肺炎球菌ワクチン 未接種者



## 肺炎球菌ワクチン 接種済み



定期接種の対象である 65 歳の方と 60～64 歳の重度の心臓・肺・腎疾患、HIV の方、保険適応で接種が可能な病気・怪我で脾臓を摘出した方やスチムリマブ・ペグセタコプラン使用者は、23 価多糖体ワクチンであるニューモバックスを安価に接種することができます。ニューモバックスの有効性は接種から 5 年ほどで 20%前後に低下すると報告されており、5 年毎の接種を勧める専門家もいますが、この追加接種は公費負担や保健適応での接種対象にはならないため、接種費用は自費となります。

定期接種・保険適応での接種の対象外ながら肺炎球菌感染症のリスクが高い基礎疾患（糖尿病、慢性肺疾患、アルコール依存症、慢性心疾患、慢性肝疾患、透析、自己免疫性疾患、抗癌剤・ステロイド・免疫抑制剤・生物学的製剤使用者、造血幹細胞移植後など）をお持ちの方は、プレベナー20 の単独接種、または 15 価ワクチンを接種して 1 年以上経過後にニューモバックスの接種が推奨されます。ただし、今のところ国や自治体からの接種費用の補助はないので、接種する場合は任意接種となり接種費用の補助はありません。

同様に接種費用は自費になりますが、ニューモバックスの定期接種を逃した 66 歳以上の高齢者や、ニューモバックスを接種したけど 1 年以上経過して追加接種を希望する方も、プレベナー20 の単独接種か 15 価ワクチン→初回ニューモバックス接種から 5 年以上経過後にニューモバックス追加接種を受けることができます。

対応する血清型が 20 まで増加したことから、プレベナー20 を接種した方はニューモバックスの追加接種は不要と考えられています。プレベナー20 と 15 価ワクチンの費用はほぼ一緒なので、プレベナー20 を単独で打つほうが接種費用は抑えられることとなります。

プレベナー20 は結合型というタイプのワクチンであることから、ニューモバックスよりも免疫原性が高くより長期間免疫が持続するのではないかと期待されており、将来的には費用対効果の観点から、公費で接種できるワクチンがニューモバックスからプレベナー20 に切り替わる日が来るのかもしれませんが。